

「ダーナ」とはサンスクリット語で、[布施]の意。

ダーナ●第21号

発行日●平成24年12月25日

編集／発行●浄土宗平和協会（JPA）

発行人●荻野順雄

Jodo Shu Peace Association

今回のダーナでは、今年4月に全日本仏教会理事長に就任された小林正道浄土宗平和協会副理事長に、仏教の社会参加、そして浄平協の未来についてうかがった。

●
昨年、東日本大震災による未曾有の災害には、一仏教者としてたいへん胸を痛めました。今も避難を余儀なくされている方が数多くいらっしゃることに對しては、心からお見舞い申し上げます。

仏教界では、多くの、特に若い仏教者が被災地にいち早く駆けつけ、今もなお復興に力を注いでいることをたいへんうれしく思います。また、多くの仏教者やその活動に對して、社会的に高い評価をいただいていることを誇りに思うと共に、全日本仏教会としても、いち早い復興を願って、継続して支えていきたいと考えています。

私は、この4月に全日本仏教会の理事長に就任いたしました。それは全日本仏教会が公益財団法人として新たにスタートを切る節目でもありました。今、仏教のみならず、宗教の公益性に厳しい目が注がれています。公益性は何かということについては議論が必要だとは思いますが、より一般社会に間口を開き、多くの方々との協働で、様々な事業を進めることが、全日本仏教会の重要なテーマだと考えています。従来寺社がコミュニティの中心で、重要な役割を果たしてきたように、昔からのあるべき姿を現代的な視点で再構成していくことなのかもしれません。

今回の震災でも、問わずも寺院が

小林副理事長に聞く 多くの方々の智慧で よりよい社会実現を

担ってきた役割を再評価する事象が多く見受けられました。震災で大きな被害のあった宗教施設を復興することが、必ずや地域コミュニティの再生になるものと、被災地での寺院再生のための活動にも取り組んでいるところで

です。
浄土宗平和協会は、それまでの活動を基礎としながら、会員制とすることで飛躍的な発展を遂げてきました。浄土宗平和賞をはじめとする事業は、まさしく公益的な視点で進められているものであり、今後多くの方々の智慧で、より一層の発展をしていくことが求められているでしょう。

浄平協も加盟している仏教NGOネットワーク（BNN）が、仏教NGOをネットワーク化し、仏教者の社会活動を世間にアピールしているように、様々な団体や個人とが相互に協働をすることで、よりよい社会実現にむけて、浄平協が担うべき役割はひじょうに大きいと思います。

全日本仏教会理事長に就任された小林正道浄平協副理事長



今年も東西でよろこびの声 〜ブック・ギフト、42名に希望図書を贈呈〜

第5回ブックギフトin Tokyo、第2回ブックギフトin Kansaiは、12月初旬、東京・増上寺、京都・百万遍知恩寺でおこなわれ、東京・京都の2会場で計42人の応募があり、33人の留学生が、希望する本を受け取った（5人は贈呈式欠席のため、所定の場所に本を取りに来てもらう）。

ブックギフト活動は、浄平協の主要な活動の一つで、東京圏、関西圏の大学、大学院に通学する私費留学生に、1万円以内の希望する図書を贈呈するもの。本年度の課題作文のテーマは、「私の好きな日本の風景」。日本に来て数年間、訪れた場所の印象などを書き記した課題レポートが集まった（別掲記事参照）。東京会場では、東京大学など14の大学から応募者が集まった。国籍別の内訳は、中国20人、韓国4人、台湾1人、香港（英国）1人。増上寺大殿で奉告法要をおこなったあと荻野順雄浄平協理事長から、応募者を代表して金月仙さん（中国）が、希望図書を受け取った。また、関西会場では、知恩寺御影堂で、参加者とともにお念仏、一枚起請文を称え、百万遍数珠くりを、参加者とともにいった。衆会堂で、大本山服部法丸台下より、希望の図書を受け取り、また、勤息執事より、寺の由来などを聞いた。関西会場の応募者は、大阪大学など6校より、中国10人、韓国2人、ベトナム3人だった。

浄平協ではブックギフト活動の全国展開を、今後想定している。まずは、名古屋、福岡などでの開催を目指しており、中小都市でも、開催可能なため、ブックギフトを実行するボランティアを、会員から募集している。予算、広報は本部、応募者募集、授与式実施は地方でという開催方法を検討している。

自動販売機に思う

陳 嵩（中国・東京大学）

外国人として日本に来て、最初からもっとも興味を持っていたのは、どこでも見つけられる自動販売機です。日本人にとって、当たり前のように存在する自動販売機は、私の目に日本人の美徳、社会の信頼と絆を象徴するものとして映っています。とりわけ、都市部から離れた過疎の地域、あるいは人影が少ない山奥に佇む自動販売機が、私のもっとも好きな日本の風景であり、心を打たれる風景でもあります。

日本に来た最初の頃、町中にある自動販売機から飲み物を買う際に、繁華街に置かれる自動販売機からしか購入しませんでした。なぜかという、お金を入れたら本当にジュースが出てくるかなと疑っていて、繁華街の自動販売機は比較的に信頼しやすいからです。その後、町中の自動販売機を疑いなく、いつも利用させてもらっています。

しかし、近年、日本各地に行く機会が増えるに連れて、過疎地や人影がほとんど見かけないところにも行ってきました。東京の街に配置されている自動販売機を信頼し切った僕は、この人影のないところの自動販売機にも信頼していい

のか、手に握っている100円玉を入れたら、ジュースが出てこなかったら、誰に訴えたらいいのかと戸惑いました。しかし、自動販売機は私の心配をすっかりと払拭してくれました。

日本人よ、自動販売機に対する私の最初の心配をからかわないでください。自動販売機とその前に立つ消費者の間のジレンマは、世界中のどこの国の消費者をも困らせているに違いません。ある国の人にとっては、自動販売機はガラスが割ればジュースが取り放題のショーケースであり、ある国の人にとっては、自動販売機は飲み物付きのATMボックスであるかもしれません。お金を入れれば、物が確実に出てくるという安心感が日本はどこの国よりも多くの消費者に与えられています。

東日本大震災を乗り越えて、復興への道を歩んでいる日本国民にとって、

この時期こそ、互いの信頼と絆を最も問われる時期です。目立たない一台一台の自動販売機は、消費者を裏切ったことはなく、いつもしっかりと頑張っている姿は、一人ひとり日本人の姿に重なっているのではないかと思います。この姿は私にとって永遠に好きな日本の風景です。

日曜日の買い物

ボラット・クルバン（中国新疆・順天堂大学）

日曜日は私の買い物の日です。いつも自転車に乗って、あっちこちに1週間の食べ物を買に行きます。

ある日曜日、私は千駄木駅の近くで、銀座商店街があることに気がきました。私は、本当の銀座には1回行ったことがあります。あそこは、世界各地のブランド品が売られている高級店ばかりで、日本各地、または世界各地から訪れた観光客が多く、とても賑やかな商店街です。それを思いながら、私はこの狭くて小さい商店街に入りました。

両側にいろいろな店が並んでいます。古い建物が多いですが、まるで日本の近代史の生きている博物館のようでした。八百屋さん、制服作り、寿司屋さん……やはり何でもある。ああ！ そうだ、どこにでもあるように見えるコンビニがなかった。ここには他のところであまり見ないイラン人のレストランが1軒ありました。イランの伝統的な方式で飾られてあるこの店では、イラン製のいろいろな手芸品も売られています。

街を訪れる観光客は、狭いからかも知れませんが、本当の銀座よりも多いように見えました。特に外国から訪れた観光客が個人で、または団体が観光しているのが多かった。長年ここで店

を開いているこの街の人々は、熟練した手技を見せながら物売りをしています。その人々の顔は、街の様子と大別して、生き生きした顔であった。その顔がこの街を賑やかにさせているのではないかと私は思いました。

家に戻ってネットで調べたら、この街は明治時代日暮駅が建てられたときに10軒ほどの店から始まり、今では70軒以上の店が並んでいました。本当の名前は谷中銀座商店街でした。

芸術の島「直島」

朴 炳五（韓国・武蔵野音楽大学）

直島は日本中南部地方の香川県の瀬戸内海海上国立公園にある小さい島です。人口はほぼ3600人ぐらいで、島の周りは16kmにすぎない。製錬工場が建ったことで発展したが、時間が過ぎることで汚染と産業廃棄物で住民たちが去り始めるきっかけになった。

その後、日本の出版教育企業・ベネッセグループの会長によって、自然と建築、そして芸術が共存する町をテーマにする独創的なプロジェクトを始めた。いわゆる、直島プロジェクトである。

福武總一郎会長は、直島プロジェクトに着手するまえに島、町のため学校と町会館、そしてフェリーターミナルなどを建てて、町の人々の心を得、直島のプロジェクトに対する協力を求めたといわれる。その上、日本の代表的な建築家、安藤忠雄氏に依頼し、美術館とホテルを兼ねた世界で最初の地下の美術館「ベネッセハウス」が建て



大本山増上寺でのブック・ギフトin Tokyoの授与式

られた。この地中美術館の中には、世界の偉大な作家の作品が並んでいる。

もう一つは、アートハウスプロジェクトだ。古い家屋を現代美術作品に変えるプロジェクトである。このプロジェクトに利用された古い家屋では、芸術作品とともに住民が暮らしている。それが一番感動を受けた。

この結果、今の直島は世界的な芸術の島で知られ、年間30万人の観光客が尋ねてくる。

私はこの島に2007年、新婚旅行で行きました。フェリーから降りてすぐ見えるものは草間弥生さんの「黄色いかぼちゃ」が喜んで迎えてくれます。その当時の直島は、あまり人々に知られていなかったもので、私たちはベネッセハウスに泊まり、のんびりと島のあちこちの芸術作品を楽しみながら過ごしました。家屋は古い建物ですけど、中に入るとすべてが展示館でした。光などを利用したり、音が響いたり……。ベネッセハウスから見ると、広い海と美しい風景はいうまでもない。また、クロード・モネの「睡蓮」と、現代を代表する美術家ジェームス・タレルとウォーター・マリアの作品が永久設置されている地中美術館は今でも心に深く残っています。私たちは10年後、子どもたちをつれて、またくるという約束をしました。

2012ブック・ギフト贈呈内容

- 応募者数
東京…27名 関西…15名
- 授与式参加者数
東京…21名 関西…12名
- 応募者国
東京…中国20名、韓国4名、台湾1名、香港（英国）1名
関西…中国10名、韓国2名、ベトナム3名
- 応募者大学別一覧（応募者数順）
東京…立教大学2名、青山学院大学2名、早稲田大学2名、昭和女子大学1名、武蔵野音楽大学1名、東京農業大学2名、拓殖大学2名、東洋大学1名、東京大学2名、東京外国語大学1名、順天堂大学3名、武蔵野大学1名、駒沢大学4名、一橋大学2名
関西…大阪大学5名、同志社大学4名、京都大学2名、滋賀医科大学2名、大谷大学1名、京都文教大学1名
- 応募者在籍一覧
東京…大学院14名、大学12名
関西…大学院6名、大学4名、研究生2名

代々を継ぐ

朴 鍾藩 (韓国・大阪大学)

日本に来る前から、日本のもの作りがすごいということは、誰もが知っていて承知していた。しかし、なぜすごいのかについては、既に科学技術が優れているからだ、また日本人はより繊細なところまで気にするからだと思いがちで、長い間日本で勉強し、生活しながら、ある日本の風景から真の答えを悟ったのである。

一時期あるテレビ番組で有名なトンカツ屋さんが出て、その店を家業として運営している三代目の息子さんの話が出た。そのトンカツ屋さんは地域を代表するトンカツ屋さんの一つであり、全国にも何個か店があり、適切な値段で美味しいトンカツと評判のソースで有名な店であった。その番組で一番印象的だったのは、三代目のインタビュー内容であった。

彼は、世の中で一番美味しいトンカツを作ろうとした創業者の祖父の意思を、自分の夢として継いでいた。またその夢を本当に誇りだと思っていた。私の母国である韓国では、「トンカツ屋さんなんかを運営しているのにそれを誇りだ？」という感覚が強い。



大本山知恩寺でのブック・ギフト in Kansaiの授与式。

家業として飲食店を継ぎながら誇りだと言う人は韓国には少ない。しかし、日本はその数が比較できないほど多く、それが飲食店に限る話ではない。技術力の高い中小企業から、小さい町工場、地域の飲食店まで自分たちが作っているものに独特のこだわりがあり、匠人の精神と誇りがこもっている。代々を継ぐもの作りの風景、たとえば作るものが特別なものではなくても、自分達の精神やこだわりがこもったもの作りを磨き続ける。これが私の一番好きな日本の風景であり、工学者として習うべき姿勢であり、囲まれた環境であると思っている。

森のある田舎

張 成 (中国・大阪大学)

大したことではないと思われるかもしれないが、これは国の根底に関わるくらい重要な風景だと私は思う。

テーマが「好きな日本の風景」、やはり日本の特有なものが重要であると考えた。しかし近年、中国の経済発展は凄まじく、都市部でのインフラ整備や高層ビルの建設が驚異的なスピードで進んできた。そのため、私は初めて大阪に着いた時、特に大きな驚きはなかった。自然の面からみても、中国

と日本それぞれに、有名な観光地が数え切れないほど多い。日本の城と桜と紅葉は確かに素晴らしいものだが、中国でも似ているものを見たことがある気がした。

今年の夏休みに、幸運に恵まれ、あるホームステイプログラムに参加させていただ

た。場所は兵庫県佐用町、大撫山の麓である。ホームステイファミリーは農業に従事されていたが、家の側はほとんどが森で、畑がわりと少なく見えた。森には、猪や鹿も普通に生活している話を聞き、私はとても信じられなかった。自分の目で鹿の存在を確認した時には、さらに唖然とした。猪と鹿のような野生動物は、中国の農村部ではとても珍しい存在だ。その理由として、中国の農村部で森が少なく、畑ばかりだから、野生動物の生息する場所はない。私は中国にいた時も時々鉄道旅行したが、電車の中から眺めると、遠くまで視線が届くが、茂みなど視界を遮るものがないのである。

畑と比べ、森に豊富な生物が生息し、より完全なバイオシステムと言える。そこで、各種の木をめぐって、いろんな植物、鳥類、昆虫類、獣類さえ存在して、生物の多様性が維持できる。そして、森の周辺の環境も、新鮮な空気を得られ、鳥の鳴き声とか花の香りとか楽しめるでしょう。もちろん、猪たちがたまに野菜を食べに畑に勝手に入ってきたという苦情を仰っている人もいるが、予め防犯すれば被害はぬがれると思う。

もっとも自然は人間にとってそんなあまいものではなく、むしろ恵みと危険が併存するものである。日本は環境の重要性を認識し、森を守ろうとして頑張っているが、一方、中国では森を燃やして畑に変えるという愚かなやり方がまだ地方で続いているようだ。中国で「天一合一」という言い方があって、それは人間と自然を合わせて和やかに暮す意味だが、実際にはその哲学がもう捨てられたみたいだ。

私は日本の「森のある田舎」が好きで、それを支えている「環境を大切にしよう」という考えに共感する。中国は日本に学ぶべきことがまだ多いと思う。

3.11、あの日の風景

杜 魯華 (中国・京都文教大学)

日本に留学に来る前に、仕事の関係で何回か東京に行った。2008年の夏に滞在した時、日光、鎌倉、横浜、熱海などに旅に行った。どこでも綺麗で、特徴があるので、好きな風景だった。但し、私にとって一番インパクトのある風景が昨年のことであった。

昨年の2月13日から3月12日に同僚と東京に出張に行った。泊まるホテルが横浜の鶴見駅に近いところで、職場が東京タワーの近くの愛宕グリーンヒルズであった。毎朝鶴見駅から電車を乗って浜松町駅に行った。電車がすぐ混んでいたが、ちょっと慣れていなかった。でも浜松町駅から増上寺を通じて、歩いて愛宕グリーンヒルズに行くのが楽しかった。毎日増上寺の初春の風景を満喫した。増上寺、東京タワー、桜の蕾などを見ると、これが日

本の伝統文化と現代文化を上手く調和しているしるしてはなにかと思っていた。

3月11日金曜日、その日が予定通りに最後の出勤日であった。午後大震災が起こった。愛宕グリーンヒルズがすぐ揺れた。中国から来た同僚が机の下で、泣きながら身震い

していた。日本人の会社の方が自分の気持ちをおさめて彼女を慰めた。

次の日の午前の飛行機便なので、ホテルに戻らなければならなかった。午後6時から日本人の会社の方が私達をホテルに送ってくれた。その時、東京の交通機関が全て止まった。街に行ったら、人が一杯だった。しかし、どこへ行っても、皆が秩序正しく並んでいた。コンビニ、タクシー乗り場、公衆電話ボックスなどに、全員が無口で並



大本山増上寺にて授与式にのぞむ留学生のみなさん

んでいた。その時の風景を見ると日本人の自律性と我慢力を強く感じた。

3月11日の大震災は、大自然の威力で起こった災害で、人間は大自然の前で弱いものである。しかし、その夜の日本人の自己コントロール力が素敵な風景だと思っている。このコントロール力を見ると、日本がきっと大震災から立ち直れると信じている。

あの日の風景は一生忘れないと思っている。

ブック・ギフトで私費留学生に贈呈した書籍一覧

C++プログラミング入門、C++実践プログラミング、クルーグマンの国際経済学理論と政策 上 貿易編、クルーグマンの国際経済学理論と政策 下 金融編、総合英語 Forest 6th edition、金融経済学の基礎、鉄道旅行日本地図 西日本編、鉄道旅行日本地図 東日本編、看護研究 第2版-原理と方法、鳥との共存をめざして-考え方と進め方、保全鳥類学、里山の環境学、自然再生 - 持続可能な生態系のために、ナマケモノ教授のぶらぶら人類学、女ざらい - ニッポンのミソジニー、よくわかる文化人類学、アイルランド論、微分積分(共立講座 21世紀の数学)、初歩から学べる線形代数、数学は言葉、線形代数学、CURRENT Medical Diagnosis And Treatment 2013、First Aid For The USMLE Step1 2012、デジタル-眼病図鑑&露出大辞典、着物と日本の色 帯の配色篇 - 帯に表現された和の美意識、シャネル-スタイルと人生、一流デザイナーになるまで、財務会計 第6版、企業分析シナリオ、証券アナリスト1次試験過去問題集 証券分析 平成24年試験対策、ラクラク突破の1級建築士スピード学習帳、1級建築士要点整理と項目別ポイント問題、1級建築士分野別厳選問題500+125、唯識仏教辞典、社会心理学、対訳 禅と日本文化、看護人類学入門、ビジネスマンの基礎知識としてのMBA入門、中級ドイツ語のしくみ、パーフェクトフレーズ ドイツ語日常会話、新完全マスター版 日本語能力試験N1、地球の歩き方 ドイツ、為替レートと対外不均衡の経済学、国際経営講義 - 多国籍企業とグローバル資本主義、新試験対応 日本語能力試験予想問題集N1、はじめての世界一周、すぐわかるSPSSによるアンケートの多変量解析 第3版、ウィニング 勝利の経営、競争の戦略、ミクロ計量経済学の方法-パナール-データ分析、定本想像の共同体-ナショナリズムの起源と流行、現代プロット読本 1、マーケティング入門、ロベール・クレム和辞典、日本語誤用辞典-外国人学習者の誤用から学ぶ日本語の意味用法と指導のポイント、新編 日本古典文学全集12竹取物語/伊勢物語/大和物語/平家物語、和声-理論と実習 (1)、対象地域外、競争の戦略、外国語教育学大辞典、テクノロジとイノベーション-進化/生成の理論、ボライトネス 言語使用における普遍現象、ペイジ診療法、決定版 頭脳画像診断-パーフェクト、Essential細胞生物学 (DVD付) 原書第3版、TOEICテスト新公式問題集 (Vol.5)、できる大事典 Windows 7、絶対合格 英検準2級、中文版日本語句型辞典-日本語文型辞典 中国語訳簡体字版、日経業界地図 2013年版、新選伝子工学ハンドブック、ベトナムの歴史 (世界

の教科書シリーズ)、SPSSでやさしく学ぶアンケート処理、マネジメント[エッセンシャル版]-基本と原則、もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら、コーポレート ファイナンス (第8版) 上、社会心理学、現代プロット読本 2、ビジネスマンの基礎知識としてのMBA入門、ピエール・エルメ マカロン、日本語教育文法のための多様なアプローチ、源氏物語と和歌を学ぶ人のために、巨匠に学ぶ構図の基本-名画はなぜ名画なのか?、大人の科学マガジン Vol.09 (プラネタリウム)、クルーグマン ミクロ経済学、調査研究法ガイドブック-教育における調査のデザインと実施-報告、食品成分表 (2012、よくわかるMicrosoft Excel (2010) 応用、よくわかるPHPの教科書、新テスト対応!これだけTOEICテスト総合対策初めて-650点、TOEICテスト新公式問題集 (Vol.5)、この業界・企業でこの採用テスト、が使われている! 2014年度版、中国・電脳大の唯ネット世論に騙されてはいけない、達人が教える Excelグラフィック101、アメモー経営、松下幸之助からの手紙-大切な人たちに、ナショナリズムの歴史と現在、シュルレアリスムとは何か (ちくま学芸文庫)、洋菓子の経営学-神戸スウィーツに学ぶ地産産業育成の戦略、生きた例文で学ぶ日本語表現文型辞典、楽典-理論と実習、組み込みマイコン教科書H8 I/O編-C言語でLED・モータ・A-Dなどを制御する、「マーケティング」の論理と技法、大学教育の創造-歴史・システム・カリキュラム、これからの正義の話をしよう、日本百名山地図 (2008年版)、戦略思考コンプリートブックと解説 改訂版 (CD付)、ザ・マーケティング【基本篇】-激変する環境で通用する唯一の教科書、図解入門ビジネス 国際金融の基本と仕組みがよーわかる本、[エッセンシャル] マイケル・ボーターの競争戦略、7つの習慣-成功には原則があった!、道をひらく、学問のすすめ 現代語訳、コモディティ化市場のマーケティング論、日本語教育の過去-現在-未来 第2巻 教師、新総合音楽講座 (9) 合唱編-混声4部合唱のわかりやすい 編曲法(楽譜)、基本編Vol.1セット [キットで遊ぼう電子回路シリーズ] [ムック]、はじめての新TOEICテスト 完全攻略バイブル、お金をかけずにお金を稼ぐ【儲け】のアイデア発想術、TOEICテスト究極の模試600問、日本語能力試験、対策 日本語総まとめ N1 語彙 [単行本]、携帯版英会話ビジネスひとこと辞典、中国のマスゴミ ジャーナリズムの挫折と自覚

混迷する現代社会に対し、われわれ浄土宗は何を放つ存在であり得るのか。法然上人の説かれた「愚者の自覚」に立ち返って、肥大する数々の課題をどのように向き合うことができるのか。今回は大阪教区願生寺・副住職/いのち臨床仏教者の会・副代表の大河内大博師に寄稿いただきました。

チーム医療に参加するということ

大阪教区願生寺・副住職/いのち臨床仏教者の会・副代表
大河内 大博

1. 仏教僧侶の危機意識と医療参画

葬式仏教と揶揄されて久しい仏教界が、危機意識をもって変革を目指し、現代の医療現場の中に役割を求めたのが、1985年に提唱されたビハーラ運動である。ビハーラとは、サンスクリット語で「僧院、休息の場」という意味を持ち、仏教を基盤としたターミナルケアの呼称・理念として、田宮仁氏（現・淑徳大学教授）によって展開されたネオブuddhism運動である。

筆者自身も、これまで複数の病院でボランティア・非常勤職員として、患者・家族の語りに耳を傾ける活動を経験させていただいてきた。そんな自身の経験と、共に活動した他の仏教僧侶との交流から浮かび上がってきたのが、仏教僧侶自身の危機意識であった。それはつまり、冒頭に触れた葬式仏教と揶揄される現状に対し、死んでからの役割のみにある仏教界の現状を批判的に捉え、また反省の結果として、老いや病の苦しみの只中にある人々に寄り添おうとお寺を飛び出した仏教僧侶が、医療現場を目指したのである。

欧米では、病院にチャプレンとよばれる患者や家族のこころのケアを専門に行う宗教者が、必ず配置されている。チャプレンは、患者からの宗教的ニーズに応えるだけでなく、宗教的背景が違う患者に対しても、患者の生きる意味の探求や喪失体験へのケア、生きがいの再構築などに、対話を通してアプローチする“スピリチュアルケア”の専門職として活動する。国際的にみてチャプレンは、宗教的な枠組みを超えたスピリチュアルケアの専門職として位置づけられていると言ってよい。

2. スピリチュアルケアの担い手としての仏教僧侶

チャプレンとして病院で活動するためには、専門的な教育課程の修了が必要となる。アメリカでは、臨床牧会教育（Clinical Pastoral Education、以下、CPE）と呼ばれる教育プログラムを受けなければならない。CPEは日本の仏教界に

は無く、現在、宗教的な背景があるものも無いものも含め、いくつかの団体がアメリカのCPEをもとに日本的なものにアレンジしたプログラムを提供している動きが増えつつあり、日本スピリチュアルケア学会では、そうしたスピリチュアルケアの教育プログラムを提供している各団体に呼びかけ、学会認定の専門資格認定制度を今年スタートさせた。

日本の仏教僧侶のなかには、まだ少数ではあるが、アメリカなどでCPEを修了した人や国内のプログラムを修了した人が、わが国の医療現場で専門職として活躍しているケースも出てきている。仏教僧侶がスピリチュアルケアの担い手として、チーム医療に参加する意義とはどのようなものか、いくつかの役割を紹介してみたい。

(1) 患者の苦悩を受け止める

スピリチュアルケアの必要性は、ターミナルケア領域からスタートした。近代ホスピスの祖であるシシリー・ソルダースが、人間の痛みをフィジカル・ソーシャル・メンタル・スピリチュアルの4領域に分類したことにより、死に逝く人に対しては、痛みの緩和等だけでなく、「どうして自分がこんな病気になるのか」といけぬのか、「神さまは私にどうしてこんな目をあわせるのか」、「死んだらどうなるのか」といった答えのない、存在そのものから発せられる問いへアプローチが必要であることが認識された。

こうしたスピリチュアルなニーズに対しては、ケア提供者がペインを取り除くという手法は通用しない。なぜならば、私たちが不治の病だけでなく、人生のなかで思い通りにならない壁にぶち当たり、身にふりかかったことそのものの変化が望めない場合、その事実・出来事をどう理解し、意味づけし、受け止めようとするかは、最後の最後には自分自身による作業と決断によらなければならないからである。ケア提供者は、そのプロセスをサポートし、決定の証人になることが求められるのである。

そのためには、徹底して患者の語りに耳を傾け、患者の想いを受けとめ、相手を評価しない姿勢が不可欠となる。

また、対象が末期患者の場合、時に患者が語る死後の世界の話や、魂の話にも付き合い、人生哲学の話題とも対話ができなければならない。

そして、何より重要なのは、患者の人生の最期の1ページに出会ったケア提供者が、その患者のいのちの息吹を感じ、死を受け止め、その語りを留めていられる死生観を持たなければならないということである。

仏教僧侶は、特定の宗教教義・宗教哲学を理解し、救いのある信仰を持ち、いのちや死に対する思惟を絶えず行うことが求められる。こうした思惟を経ることで、患者のどうしようもない苦悩に寄り添いつつ、またその苦悩が解決しないことへの怒りや失望、無力感と仏教僧侶自身も闘いながらも、その場に居続けられることができてくる。

(2) 自己決定のサポート

スピリチュアルケアは、患者の死に関わる苦しみに寄り添うことだけでなく、患者が持つ価値観や世界観、物事の優先順位を決定づけている信念を明確化していくサポートも重要な役割としている。病気になるという予期せぬ出来事に遭遇し、本当はそうあって欲しくなかった現実に向き合おうとするためには、価値観や信念の変更を余儀なくされるのである。そのため、患者が持つ主観世界を明確化するための対話を通して、患者自らが、継続する価値観・信念、諦める価値観・信念、そして新たに持つ価値観・信念というように、主観世界の再構築をサポートしていく。

チャプレンは前述の(1)のような姿勢を経て、患者の主観世界の理解者として、患者をサポートする立場になってゆく。こうした役割の多くは看護師が担っているが、じっくりと患者の主観世界に耳を傾ける時間がないという問題がある。スピリチュアルケアを担うチャプレンの存在は、こうした状況下にある医療現場において、患者の自己決定をサポートする役割として、チーム医療内で力を発揮する。

(3) スタッフのケア

言うまでもなく、医療の現場はストレスフルな世界である。すべての病を現代の医療が思い通りにすることはできず、どれだけ献身的に全力を尽くしても、良い結果を見いだせないこともあり、また全人的ケアを完全に提供することも実際は難しい。

さらには昨今の“患者さま”志向は、医療従事者に過度のサービス提供者としての接遇を要求しているようにも見える。こうした環境のなかで、医師同士、看護師同士、あるいは多職種スタッフ間で想いを共有し、ストレスを軽減するこ

大河内大博（おおこうち・だいほく）
大阪教区願生寺副住職、いのち臨床仏教者の会副代表。
2002年より病棟訪問を開始。現在、市立川西病院緩和ケア病棟、死別体験者の分かち合いの会「ともしび」などで活動中。2009年第1回浄土宗平和賞受賞。日本スピリチュアルケア学会事務局長/暫定指導臨床会員。共著に『グリーフケア入門』（勁草書房、2012年）。



とができる一方、同業種だからこそ言えない悩みやストレスもあって当然である。そしてまた、何よりすべての医療従事者は、「医師」、「看護師」である前に、一人の「父」であったり、「母」であったり、「息子」・「娘」であったりといった家庭や友人関係のなかで人生を歩みながら、専門職として働いているのである。職場だけでなく、家庭やそれ以外の社会的関係のなかでも悩みやストレスを抱えつつ、働く生身の人間である。

スピリチュアルケアを担うチャプレンは、そういったスタッフの職場上のケアを、「医師」や「看護師」という立場へのアプローチだけでなく、1人の人間としてサポートし、ケアし得る立場にある。こうした立場は、人生のよろず相談を生業とする仏教僧侶の本業でもある。

3. 人間の根源性と向き合うために

私たちにとって、病や死は避けたい事象である。仏教では、それを苦しみの根本として捉え、どうすることもできないものとして諦める（あきらかに見つめる）ことを説く。しかし、悟ることのできない私たちは、諦めることができず、病と闘い、死を遠ざけようとする。そうした存在である限り、医療現場に、病との闘いを中止し死を迎えなければならない現実がある以上、患者や家族は常に心のどこかに苦しみを抱えることになる。

スピリチュアルケアとは、こうしたどうすることもできない現実、どうすることもできなくともその苦しみにある患者・家族と共に在ろうとする姿勢を基本とする。

仏教僧侶は病や死をどうすることもできないことを知っている。そして、どうすることもできないことを諦められないことも知っている。その自分の弱さ、人間の弱さを知っている仏教僧侶が、ただただ、耳を傾け、対話を通して、患者・家族とともにあろうとする時、科学的なチーム医療のなかで、人間の根源性に目を向けたケアを担うことができるのではないだろうか。それは、どれだけ医療が発展しても避けられない、死する存在を対象とする医療現場で、患者・家族、そして厳しい現場に身をおく医療従事者、それぞれの“いのちの輝き”に少しでも貢献したいという、筆者自身の願いでもある。

スピリチュアルケアという専門職が日本においても認知されてきた今、仏教僧侶がその担い手として、チーム医療に参加していく機会が増えていくことを期待して止まない。

（本稿は『THE LUNG perspective』vol.20 No.1「医療と哲学」の原稿をもとに加筆・修正したものです）

ガザ緊急子ども支援のお願い

イスラエルが11月14日にパレスチナ自治区ガザに対する大規模空爆を開始、その後数日間にわたる空爆で、ガザでは子どもを含む多数の犠牲があったことは、報道などでご承知のことと思います。一応停戦合意をしたものの、現地ではまだ不安定な状況が続いています。浄平協が支援するNGO「パレスチナ子どものキャンペーン」から、今回の空爆による現地の状況等をご報告いただきました。

緊急対応プログラムを開始

当会ではパレスチナのガザ地区で、1992年よりアトファルナろう学校支援を継続し、また2006年よりナワール児童館を支援しています。

2012年11月14日から8日間続いたイスラエル軍のガザ攻撃による子どもたち、また市民への影響について、ナワール児童館を共同で運営している地元NGOのCFTA (Culture and Free Thought Association) との初動調査を実施しました。その結果、子どもたちにフラッシュバックやトラウマが多く見られることが判明したため、緊急対応プログラムを開始しました。

この活動にご支援ご協力くださいますようお願い申し上げます。

2012年11月14日～21日までのイスラエル軍のガザ攻撃による被害状況

- 死者165人 (内61人が17歳以下、18人が50歳以上、11人が成人女性)
 - 1269人が負傷 (内500人が17歳以下、88人が50歳以上、212人が成人女性)
 - 155棟の住宅・アパートが全壊、7000棟が半壊
 - 6つの病院が被災。教育施設は2つが完全に破壊され、22が被災
 - モスクの2つが全壊、30が被災、1つのキリスト教会が被災
 - 2つのスポーツ施設、15の施設が被災 (数字はガザ保健省の報告による)
- 「人命が失われたということを量的あるいは統計面で表現するのは容易で

はありません。攻撃が将来にわたり、人々にどのような影響を与えるかを説明することも重要なことです。数字で表される報告はたくさん出るでしょうが、住民への心理的な影響についての報告は現在までのところ出されていません。百数十万人が1週間にわたって、空爆や海上と戦車からの砲撃などの恐怖にさらされた結果は、まだ判明していないのです」
(CFTAスタッフの言葉)

子どもたちの状況

停戦後、現場に復帰したCFTAのスタッフへ、児童や青少年がストレスのサインを出しています。過剰に泣く、恐怖、頭痛、孤独感、普段よりも多動、攻撃的、あるいは根拠のない焦燥感が見られます。親たちからは、夜尿への戻り、睡眠中の叫び声が報告されています。親をなくしたり、家族や友人をなくした子どもたちは悲嘆、トラウマ、無力感、罪悪感にさいなまれているのです。

2008-2009年のガザ攻撃の経験からも、子ども、女性、青年に心理的衝撃が強烈に続くことが予想されます。死者や負傷者の多さと、ほとんどすべての住民が攻撃の目撃者になったからです。しかも、こうした攻撃を2008年と今回の二度にわたって経験した人たちにフラッシュバックが多く見られ、深いトラウマなどの問題につながるこ

とが予想されます。死を身近に感じた経験、先行きの見えないこと、何一つ自分の思うままにならないこと、続く恐怖、トラウマになるような状況の目撃……など、長期にわたる問題が予想させられます。

最新のUNICEF報告書は、窓ガラスが飛散しないように窓を開けて寒さの中で眠らざるを得なかった子どもに注目しています。また家屋の破壊、学校や道路、公共施設などの被害は、子どもに大きな影響を与え、その基本的な権利を奪っているし、空や海から子どもが圧倒的に多い人口密集地域に対する軍事攻撃は「子どもの権利条約」の重大な違反行為であると述べています。

支援活動について

当会ではCFTAと共同で運営しているナワール児童館で、2009年の戦争直後から、子どもたちへの心理サポートを行いました。今回もニーズが大変に高く、児童館では停戦直後の22日から活動を開始しています(児童館は幸い直接的な被害は免れました)。

女性たち、特に母親たちの心的ストレスも甚大です。母親たちが健康でいてこそ、家族を支えることができ、子

どもたちの生活を改善することができません。しかし母親たちへのサポートは家族の中では最後になってしまいがちです。女性を支えることで子どもを支えることができるのです。

また、戦争中もCFTAのスタッフは活動していました。その一方で、コミュニティの一員であるスタッフ自身が攻撃の目撃者、被害者です。恐ろしい経験をし、負傷したスタッフ、4日間安全な場所を求めて逃げ惑った人もいます。こうしたスタッフたちに心理的なサポートを提供することも重要になっています。

○対象者

ガザ南部ハンユニス郊外ナワール児童館の子どもたち約200名、地域の子どもたち約500名、母親や女性たち100～200名、数百家族、スタッフ10名

○子ども支援の概要

1. 児童館に登録している子どもおよび地域の小学校も対象にする
2. 短期的なプログラムを半年間継続し、その後約1年間の長期プログラムを実施
3. 短期プログラムの主な活動
 - ・リクリエーション、遠足、人形劇やクラウンのイベント

- ・セラピーとしてのアートや演劇活動
- ・子どもたちによるアニメーションの制作や撮影した写真の展示会など自己表現活動
- ・学校や地域でのイベント
- ・家族への支援
- ・被災した子どもへの物資支援

○母親たちへの支援

- (CFTAの他のセンターと共同して)
- ・被害のひどい地域での家庭訪問やワークショップを通しての心理的サポート
- ・生理用品などの配布
- ・携帯電話SMSメッセージや地元FMを使った女性向けのメッセージ、体験談の募集
- ・女性向けのリクリエーションイベントの実施
- ・子育て支援のワークショップ

○スタッフ支援

- (CFTAの他のセンターと共同して)
- ・ワークショップやリクリエーション
- ・外部専門家によるプログラム参加

※同会への寄付は以下へ

○郵便振替

加入者名: パレスチナ子供のキャンペーン
口座番号: 00160-7-177367
その他の寄付の方法もありますので、詳細は同会までおたずねください。
TEL: 03-3953-1393、E-mail: info@ccp-ngo.jp



ガザ地区・停戦後の子どもたちの登校風景 (写真提供: パレスチナ子どものキャンペーン)

第7回スタディツアーは2月に実施、参加者募集中!

浄土宗平和協会は、「NGO支援活動」で支援させていただいている各団体の活動地を視察し、併せて仏教遺跡を巡る第7回スタディツアーを、2月18日より8日間の日程で行う。今回は「釈尊誕生の地、涅槃の地を訪ね、カースト差別の現実を学ぶ旅」と題して、反差別国際運動 (IMADR) ならびに、ネパールで活動しているフェミニスト・ダリット運動 (FEDO) の協力で、ネパールでの研修をし、お釈迦様の生誕地ルンビニー、涅槃の地クシナガルをおとずれる。

旅行代金は浄土宗平和協会会員は272,000円、会員外は288,000円となっている。詳しくは同封のパンフレットを参照のこと。申込は、アショカツアーズBS観光 (06-6444-2225担当道家まで)。



ルンビニーのマヤ堂

「第5回浄土宗平和賞」×切り迫る

～ぜひ多くの推薦をお願いします～

社会参加する寺院を支援し、顕彰する「浄土宗平和賞」(JPA主催)の推薦締め切りが、来年1月末日に迫っています。この賞は、浄土宗の教義を広め、儀式を行うという寺院の活動にとどまらず、「社会参加する仏教」を志向し、平和活動、国際交流活動、環境保護活動、地域福祉活動など、幅広い分野で公益のための活動を行っている浄土宗寺院・教師または浄土宗教師が代表(中心的な役員)を務める団体を顕彰し、支援するものです。また同時に浄土宗平和協会の広報誌「ダーナ」などを通じて受賞寺院(浄土宗教師)の活動内容や、ノウハウなどの情報を提供し、活動事例として各会員の社会参加型事業への取り組みを啓発、醸成することを目的として創設されました。

◆賞の内容

賞状・副賞(50万円)

◆表彰対象

1. 浄土宗寺院・教師
2. 浄土宗教師・寺族が代表(中心的な役員)を務める団体

◆選考方法・表彰

浄土宗平和協会の理事会によって選考し、浄土宗平和協会総会の席上、表彰し副賞を授与します。(平成25年6月頃を予定)

◆募集方法

1. 公募(自薦他薦問わず)
2. 教区長、教化団長、浄青会長、浄土宗平和協会会員による推薦

◆応募・締切

所定の推薦書に必要事項を記載の上、当協会事務局まで郵送してください。
応募の締切は平成25年1月末日までです。

◆受賞対象の活動事例について

以下は候補となる活動事例の一部を掲げたものです。
※国際交流団体を寺族及び檀信徒が中心になってつくり、海外の恵まれない人々への教育・医療・福祉その他の人道支援を継続的に行っている。
※日本で生活する留学生に奨学金を送り、生活の支援を行っている。
※日本文化の紹介のために、地域と一緒に、寺を会場にお茶やお花、能楽などのフェスティバルを行い国際交流を図っている。
※地域NGOを組織し、町並み保存、伝統的景観保存など“まちづくり”運動を行っている。
※地域の盆踊り大会を主催し、町を挙げての一大イベントになっている。

《推薦書送付先/問い合わせ》

JPA東京事務局(平和賞担当:杉浦靖俊)
〒191-0011
東京都日野市日野本町2-12-13
大昌寺内
TEL:042-581-2125 FAX:042-581-2125

◎ JPA東京事務局より

報告●浄平協東京事務局・斎藤美香

平成22年度より東京事務センターにてお手伝いさせていただいております。理事長をはじめ役員の皆様、事務局員の皆様、会員の皆様からさまざまなサポートをしていただきながら2年が経ち、今日に至っております。

東京事務センターを立ち上げ、事務処理の多さに驚いたことと同時に、大きな事業の一つひとつがすばらしいものだと感じました。

「平和賞贈呈式」「ブックギフト授与式」には実際に参加させていただき、受賞者の喜びに微力ながら貢献できたことに私自身も嬉しくなりました。

NGO団体の活動には昔から関心がありました。貧困ゆえに病気で亡くなる子供、女性の人権侵害の話や映像を見ますと、私にも小さい子供がいますので胸が痛い

思いでした。しかしながら、自分に何ができるのかと考えてもなかなか見つからず行動できないものでした。そんな中で、浄土宗平和協会の平和念仏募金を専門的なNGO団体へ支援するという事業で、事務や募金を通じて少しでもお手伝いさせていただいていることは、自身の支援活動の第一歩であるとも感じています。

「スタディーツアー」も毎回興味深い場所を訪れており、参加希望者が定員以上の大盛況のもようです。私自身も参加したいのですが、小さい子供もおりますのでいづれは夫婦で参加できたらと思っております。

日々、煩雑な事務処理を行っている中ではありますが、自身の勉強にもなっていますし、会員の皆様との触れ合いを通じて得るものもたくさんあります。まだまだ力足らずな部分が多々ありますが、皆様にサポートしていただきながら「浄土宗平和協会」の今後の発展に少しでもお力添えできればと思っております。



長島前理事長ご逝去



浄土宗平和協会の初代理事長長島善雄上人が、今年7月13日ご遷化された。戒名は徳運社廣譽深阿浄和善雄大和尚。91歳。
ご葬儀には、荻野順雄理事長が参列し、また「長島前理事長先

生のご逝去のお知らせに接し、悲しみに耐えられません。浄土宗平和協会に対する永年のご功勞に敬意を表しますとともに、平和に取り組まれた先生の熱い思いを、これからも受け継いで行くことをお約束し心からのご冥福をお祈り申し上げます。合掌」との弔電を送った。また、日展理事三橋國民氏の制作による平和の額(レリーフ)を墓前に捧げた。

長島善理事長は、昭和63年の長崎市での教化推進会議の決議

に基づく浄土宗平和推進協議会を平成2年に初代理事長として立ち上げ、広島、長崎での原爆慰霊者法要、各地での太平洋戦争戦没者慰霊法要などを浄土宗と共催したほか、平和への願いを形にする「聖日献金」(現・平和念仏募金)を始め、イラク戦争、アフガニスタン内戦などの難民救済活動を行うなど平和への熱意で会をリードした。平成19年に理事長を辞任し、浄平協参与として活動していた。

私

も浄平協会員

京都教区教区長
小田芳隆師



今回の「私も浄平協会員」は、京都教区教区長の小田芳隆師です。

北嵯峨の古刹・直指庵は、隠れた紅葉の名所として知られていますが、参詣者が悩みを綴ったり、相談する事ができる「想い出草ノート」も有名です。同庵の住職の小田師から、浄平協への期待をお話いただきました。

あれは数年前でしたでしょうか。宗からの郵送物の中に、浄土宗平和協会の機関誌「ダーナ」が目にとまりました。私は、「平和」というのは、法然上人のみ教えそのものであると考えていましたので、実は協会の活動はよく知らずに、「平和」という言葉に導かれ、入会をいたしました。

入会后、改めて協会の活動を確認してみると、世界の困難な地域で活動するNGOへの支援など、地道な活動を着実に重ねてきていらっしゃるものだと感心したことを記憶しています。

さて先日、京都新聞のコラム「凡語」に、〈子どもを大切にす国〉というタイトルの記事を目にしました。飛行機内で泣き止まない赤ちゃん連れの母親に対する賛否を綴った内容でした。『「やっぱり迷惑」など同意する声も少なからずあった』との一文には淋しさを感じずにはおれませんでした。

同コラムには、明治初期の頃、日本を訪れた米国の動物学者エドワード・S・モースが、当時の日本社会を紹介して、「世界中で日本ほど子どもが親切に取り扱われ、深い注意が払われる国はない」とその著書に記していると紹介していますが、かつての日本から失われたもの、失ってはならなかったものは何かを考えないといけな時期にきているように思います。

「上求菩提・下化衆生」という阿弥陀如来の教えを表す言葉があります。詳細の説明は省きますが、つまりは一人で生きているのではない、一切衆生がみなで導かれていくというのが「平和」という言葉を如実に現した姿だと思います。

すべての浄土宗教師が、法然上人の教えを体現し、平和を希求するならば、すべからく浄土宗平和協会の会員となって、共に活動を支えていくべきではないかと考えます。

浄土宗平和協会（JPA）



会員募集

国や信条を超え、「平和」という人類共通の理念のために、志を同じくする人々による連携をめざす継続的なネットワーク運動として、浄土宗平和協会は会員を募集しています。入会希望、問い合わせは下記事務局へ。



知恩寺にて数珠繰りを体験する留学生のみなさん

【入会要項】

浄土宗平和協会（JPA）の活動にあなたも参加しませんか？

正会員

対 象……………浄土宗教師・寺族
会 費……………年間10,000円

賛助会員

対 象……………檀信徒、企業や宗教法人以外の団体
会 費……………檀信徒会員 年間 2,000円
法人会員 年間 10,000円（一口）

正会員は、入会時に「私たちは平和を祈念します」と記された会員プレートをご贈呈します。賛助会員は、応援に感謝を込めて、会報ダナーに芳名を掲載します。正会員、賛助会員は、スタディーツアーに割引料金で参加できます。



平和念仏募金のご協力をお願い

平和念仏募金は、各NGO団体への援助、私費留学生に希望図書を贈呈するブック・ギフト活動、社会参加するお寺を顕彰する浄土宗平和賞などの活動に充てられます。

恐縮ではございますが、何とぞご協力賜りますようお願い申し上げます。

- ◆平和念仏募金は、浄土宗劈頭宣言にある愚者の自覚に立ち返り、「世界に共生」する平和・環境・福祉・人権などの諸問題に取り組むための募金です。
- ◆①世界の人々に役立つ、②共に学びあう、③社会にアピールする、④新たな人材を発掘・要請する一との方針のもと、国

- 際的に活躍するNGO（非政府組織）を支援しております。
- ◆私費留学生希望図書支援「ブック・ギフト」事業を行い、留学生へプレゼントした書籍の購入費として役立たせていただきます。

JPA 浄土宗平和協会4つ活動

- 1 平和念仏募金運動
- 2 ブック・ギフト事業
- 3 浄土宗平和賞
- 4 スタディーツアー・NGO支援

浄土宗平和協会役員・スタッフ

理事長……………荻野順雄	監 事……………塩竈義明
副理事長……………小泉顕雄	村上真瑞
小林正道	専門委員……………戸松義晴
理 事……………橋田邦俊	茂田真澄
石上源應	事務局次長……………服部光雅
山川正道	事務局……………中野隆英
深谷雅子	杉浦靖俊
金田進徳	齋藤隆尚
東海林良雲	鍵小野和敬
泉 禮子	大島康裕
事務局長……………川副春海	嘉藤哲也
	斎藤美香

ご希望の方には詳しい案内の掲載された協会のパンフレット（入会用振込用紙つき）を同封いたしておりますのでご利用ください。

浄土宗平和協会（JPA）

〒605-0062 京都市東山区林下町400-8 浄土宗人権同和室内
電話075-525-0484 Fax075-531-5105

連絡・問合せ先：浄土宗平和協会事務センター

〒121-0832 東京都足立区古千谷本町2-12-18

電話03-3855-8781 Fax03-3855-8782 メールjpa-info@jodo.or.jp
郵便振替口座【01020-5-16369 名義：浄土宗平和協会】

